

平成 31 年度

生活インフラサービスへのアクセス状況実態調査

委託事業

報告書

令和 2 年 3 月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング

目 次

1. はじめに	1
2. 調査地の選定	2
2.1. 概要	2
2.2. 全国旧市区町村別の生活インフラサービス数の集計.....	2
2.2.1. 候補地選定の方法.....	2
2.2.2. 調査対象地の決定	2
3. アンケートの実施	5
3.1. 調査先と日程.....	5
3.2. アンケート票の作成.....	6
3.3. アンケートの進め方	7
3.4. アンケート回収結果.....	8
4. アンケート集計結果	9
4.1. 食品・日用品小売サービス.....	9
4.1.1. 回答者の年代	9
4.1.2. 回答者の性別	12
4.1.3. 来場の方法.....	14
4.1.4. 所要時間	16
4.1.5. JA への加入状況	19
4.1.6. 利用頻度	23
4.1.7. JA 施設の利用意向	28
4.1.8. 今後も利用したい理由	36
4.1.9. JA 施設以外の利用	40
4.2. 金融サービス.....	48
4.2.1. 回答者の年代	48
4.2.2. 回答者の性別	50
4.2.3. 来場の方法.....	52
4.2.4. 所要時間	54
4.2.5. JA への加入状況	56

4.2.6. 利用頻度	58
4.2.7. JA 施設の利用意向	61
4.2.8. 今後も利用したい理由	65
4.2.9. JA 施設以外の利用	70
4.3. ガソリン小売サービス	78
4.3.1. 回答者の年代	78
4.3.2. 回答者の性別	80
4.3.3. 来場の方法	81
4.3.4. 所要時間	83
4.3.5. JA への加入状況	84
4.3.6. 利用頻度	86
4.3.7. JA 施設の利用意向	90
4.3.8. 今後も利用したい理由	94
4.3.9. JA 施設以外の利用	98
5. まとめ	106
5.1. インフラとして機能について	106
5.2. アクセスの状況把握について	107
5.3. 今後の調査について	108

1. はじめに

農業協同組合法等の一部を改正する等の法律（平成 27 年 9 月 4 日公布）において、政府は、准組合員の組合の事業の利用に関する規制の在り方について、施行日から 5 年を経過する日までの間、正組合員及び准組合員の組合の事業の利用の状況等についての調査を行い、検討を加えて、結論を得ることとされている。

本事業は、この調査の 4 年目として、生活インフラサービスへのアクセス状況の実態について、現地調査（事例調査）により明らかにすることを目的とする。調査の対象としては、農業協同組合が行う、食料品・日用品小売サービス、金融サービス、ガソリン小売サービスである。本年度事業では、これら 3 サービスを同地域に有する 12 カ所についてアンケート調査を実施し、各インフラサービスへのアクセスの状況等について明らかにした。

2. 調査地の選定

2.1. 概要

本章では、生活インフラサービスの店舗における現地アンケート調査の調査地の選定方法について記載する。

2.2. 全国旧市区町村別の生活インフラサービス数の集計

2.2.1. 候補地選定の方法

本調査では、1地域を小学校区程度の単位とし、全国12地域でアンケート調査を実施した。調査対象地域は、地域的に偏りがないよう考慮し、北海道、東日本、西日本でそれぞれ、都市的地域、平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域の区分ごとに1地域選定を行った。

調査地では、「金融サービス」「食料品・日用品小売サービス」「ガソリン小売サービス」の各店舗においてアンケート調査を実施することから、これら3店舗が旧市区町村区内程度の地域に揃っている地域を調査対象の候補地とした。

具体的には、全国市区町村の「金融サービス」「食料品・日用品小売サービス」「ガソリン小売サービス」の住所情報を用いて、GIS上にマッピングを行い、旧市区町村の境界情報と重ね合わせることで、旧市区町村内に3つの生活インフラサービスが揃っている旧市区町村を抽出した。

2.2.2. 調査対象地の決定

前述の方法によって候補地を選定した後、調査対象地を決定した。選定にあたっては、3店舗の合計店舗数が多い市区町村を優先的に選定した上で、同一都道府県や地理的な散らばりを勘案して調査地域を選択した。

図表 2.1 調査対象地域の店舗数およびアクセス困難者率

地域			店舗数				アクセス困難者率		
都道府県	市区町村	旧市区町村	ガソリン	金融	食料日用品	合計	金融	食料日用品	SS
北海道	岩見沢市	岩見沢市	4	4	3	11	6.5	4.3	1.2
愛知県	豊橋市	豊橋市	5	11	4	20	1.4	1.1	0.0
兵庫県	姫路市	姫路市	1	17	2	20	0.5	0.3	0.0
北海道	帯広市	川西村	7	6	1	14	1.8	0.9	0.0
宮城県	亘理町	逢隈村	2	2	1	5	4.6	3.7	0.0
鳥取県	米子市	大高村	1	1	1	3	1.5	0.8	0.0
北海道	当麻町	当麻町	2	1	1	4	18.6	11.8	0.1
群馬県	嬬恋村	嬬恋村	5	4	2	11	16.1	10.8	0.0
高知県	香美市	美良布町	1	1	1	3	13.8	15.5	0.6
北海道	北見市	留辺蘂町	2	2	2	6	7.5	5.3	0.2
新潟県	魚沼市	須原村	1	1	1	3	13.8	14.0	0.9
鹿児島県	霧島市	霧島町	1	1	2	4	7.2	5.8	0.0

注) アクセス困難者率とは、「平成 30 年度農協監査・事業利用実態調査における准組合員の事業利用規制の在り方」で市町村別に推計した、各インフラ施設まで徒歩 15 分、車で 20 分以上かかる人口の比率を示す。

図表 2.2 調査対象地域



3. アンケートの実施

3.1. 調査先と日程

各調査地域における調査対象店舗と、アンケート調査実施期間は以下に示す通りである。

調査地	北海道 ／東／ 西日本	地域 区分	都道府県	市町村	旧市区町 村	実施期 間	店舗
1	北海道	山間 農業 地域	北海道	北見市	留辺蘂町	9/30- 10/2	JA きたみらい留辺蘂支店
							E-コ-プ るべべ店
							ホクレン留辺蘂給油所
2	北海道	平地 農業 地域	北海道	帯広市	川西村	9/25- 27	JA 帯広かわにし本店
							A コ-プ川西店
							ホクレン川西 給油所
3	北海道	都市 的地 域	北海道	岩見沢市	岩見沢市	9/30- 10/2	JA いわみざわ 本所貯金課
							A コ-プ であえる店
							美園給油所（セルフ）
4	北海道	中間 農業 地域	北海道	当麻町	当麻町	10/23 ～25	当麻農協給油所
							JA 当麻本所
							ホクレンショップ 当麻店
5	東日本	平地 農業 地域	宮城県	亘理町	逢隈村	11/11 ～12	JA みやぎ亘理本所
							逢隈 SS
							A コ-プ ふれあいセンター
6	東日本	中間 農業 地域	群馬県	嬬恋村	嬬恋村	10/7-8	大前給油所
							JA 嬬恋村本所
							A コ-プオアシス店
7	東日本	山間 農業 地域	新潟県	魚沼市	入広瀬 村、須原 村	10/15- 16	北魚沼セルフ須原
							JA 北魚沼守門支店
							A コ-プ守門店
8	東日本	都市 的地 域	愛知県	豊橋市	豊橋市	10/24- 25 10/31	神野新田 SS
							JA 豊橋西
							ファーマーズマーケット吉田方
9	西日本	都市 的地 域	兵庫県	姫路市	姫路市	10/31- 11/2	JA 兵庫西 勝原支店
							JA-SS JA 全農兵庫 ジョイナス ドリーム英賀保
							E-コ-プ近畿 高浜店
10	西日本	平地 農業 地域	鳥取県	米子市	大高村	10/9- 10/11	JA 鳥取西部大高支所
							JA-SS 大高
							A コ-プ大高店
11	西日本	中間 農業 地域	高知県	香美市	美良布町	10/15 11/19- 20	JA とさかみ香北支所
							A コ-プ香北
							香北 SS
12	西日本	山間 農業 地域	鹿児島県	霧島市	霧島町	10/14- 10/16	JA あいら霧島支所
							JA-SS JA あいら 霧島 SS
							A コ-プ鹿児島 霧島店

3.2. アンケート票の作成

アンケートの作成にあたっては、回答者へ過度の負担がかからないシンプルなものとし、以下の通り設定した。これはJAバンクを対象としたものであるが、購買サービス、ガソリン販売サービスについてもほぼ同様のアンケート票とした。

JAバンクの利用に関するアンケート	
■あなたの年齢と性別について該当する箇所を○でかこんでください。	
年齢（10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上）	
性別（ 男性 女性 ）	
■このJAバンクまでどのような方法でお越しになりましたか？	
1. 車・バイクできた 2. 自転車できた 3. 歩いてきた 4. その他の方法できた	
■この店までのだいたいの所要時間についてお答えください。	
1. 5分以内 2. 5分～10分 3. 10分～15分 4. 15分～20分 5. 20分～30分 6. 30分以上	
■JAへの加入の状況についてお答えください。	
1. 正組合員である（家族に正組合員がいる） 2. 准組合員である（家族に准組合員がいる） 3. 組合員ではない	
問1 この店を含め、JAバンクをどれくらいの頻度で利用していますか（あるいは、今後利用する予定ですか）。	
1. 1週間に1回以上 2. 月に1～2回程度 3. 年に数回程度 4. ほぼ利用しない	
裏面へつづきます	
問2 今後もJAの金融サービスを利用したいですか。	
1. 利用したい 2. どちらかといえば利用したい 3. 分からない（どちらともいえない） 4. 積極的に利用する予定はない 5. 利用する予定はない	
→ 問2-2にお答えください → 問3におすすみください	
※問2で1. 2. を選んだ方にお伺いします。	
問2-2 今後も利用したい理由を教えてください（複数回答可）。	
1. 金利・手数料の条件が良いから 2. 1. 以外の金融商品の内容が良いから、 3. 接客態度や店舗の雰囲気が良いから 4. 店舗が近くて便利だから 5. JAに親しみ・親近感があるから 6. その他	
問3 JAによる金融サービス以外に日常的に利用できる（利用している）金融サービス（銀行など）はありますか。	
1. ある（現在利用している） 2. ある（現在利用していない） 3. ない	
アンケートはこれでおわりです。ご協力ありがとうございました。 最後に、JAについて要望やご意見があれば、自由に記入してください	

3.3. アンケートの進め方

アンケートの実施にあたっては、1地域2～3日間を調査期間とし、各地域1～3名の調査員を派遣して実施した。購買店舗とJAバンクでは、机を設置し、利用者が適宜座って回答できるようにするのと併せて、調査員がボードを持って利用者に声がけをし、聞き取り形式で回答してもらう形も実施した。ガソリンスタンドでは、給油中の利用者に声がけをして、調査員が聞き取り形式で収集した。また、回答者にはお礼としてエコバックを配布した。

調査スペースの例（北海道帯広市コープ川西店）



調査の様子（JA あいら共同霧島 SS）



3.4. アンケート回収結果

アンケート調査は、令和元年9月～11月にかけて、各店舗の店頭にて実施した。その結果を下表に示す。集計にあたっては、不正な回答が1カ所でもあったサンプルを除いており、有効な集計サンプル数を有効回答数として示している。

類型	都道府県	市町村	購買店舗		JA バンク		ガソリンスタンド	
			回収数	有効回	回収数	有効回	回収数	有効回
都市的地域	北海道	岩見沢	66	61	50	46	50	47
	愛知県	豊橋市	52	46	55	51	53	47
	兵庫県	姫路市	80	75	41	39	60	58
平地農業地域	北海道	帯広市	55	53	51	50	51	46
	宮城県	亘理町	60	60	50	49	50	50
	鳥取県	米子市	64	60	44	42	50	50
中間農業地域	北海道	当麻町	56	55	52	51	52	51
	群馬県	嬬恋村	50	47	50	48	50	49
	高知県	香美市	52	51	53	53	50	45
山間農業地域	北海道	北見市	53	50	41	40	30	30
	新潟県	魚沼市	50	47	50	49	50	49
	鹿児島	霧島市	70	69	50	50	51	51

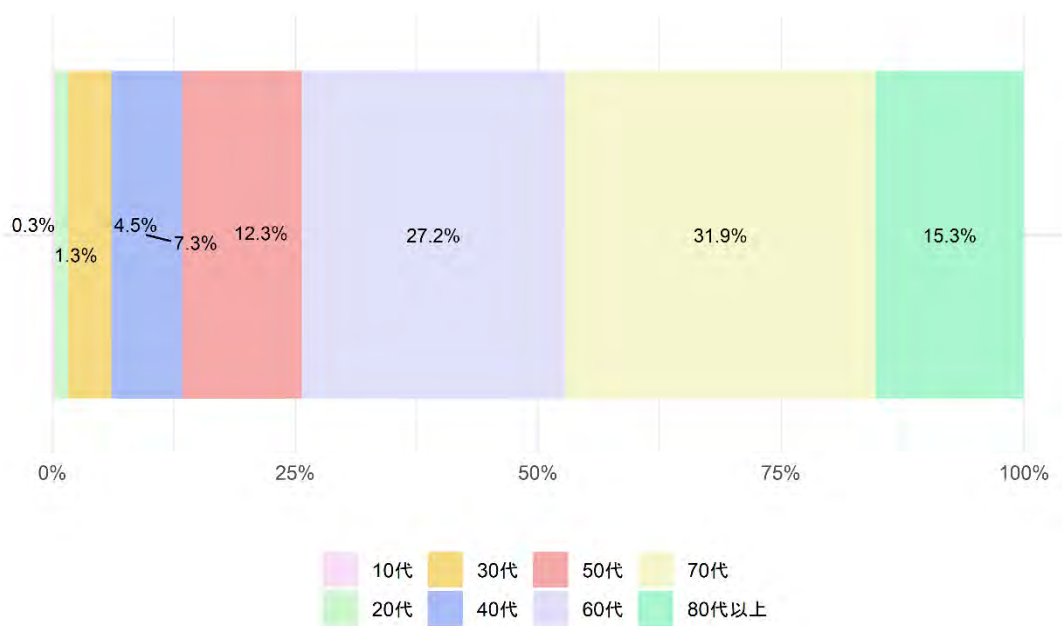
4. アンケート集計結果

4.1. 食品・日用品小売サービス

4.1.1. 回答者の年代

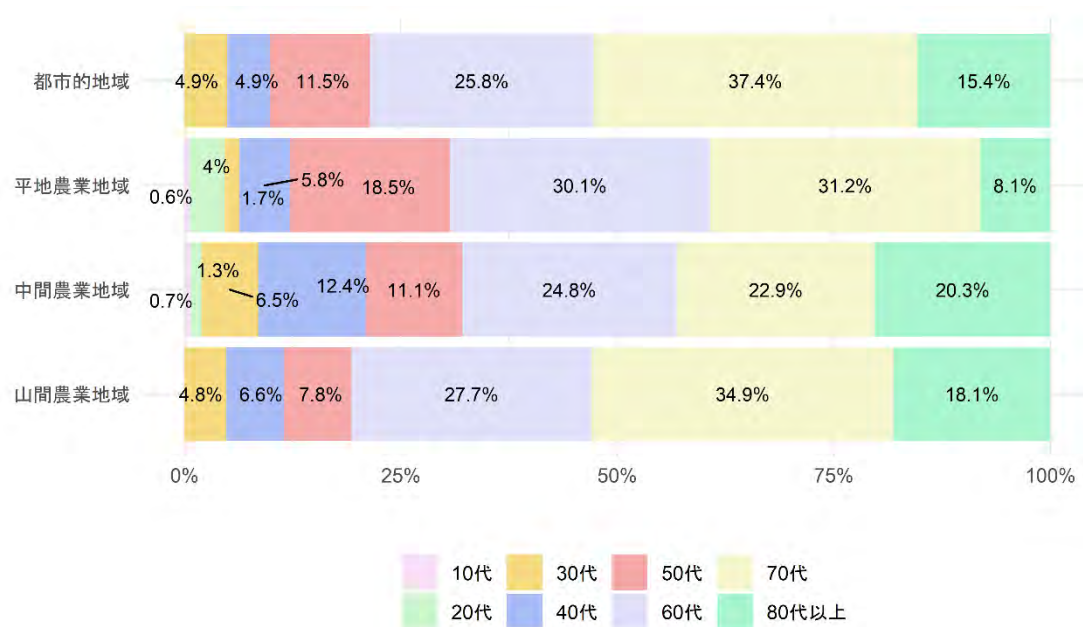
(1) 全体

回答者の年代は、ほぼ3／4が60歳以上である。



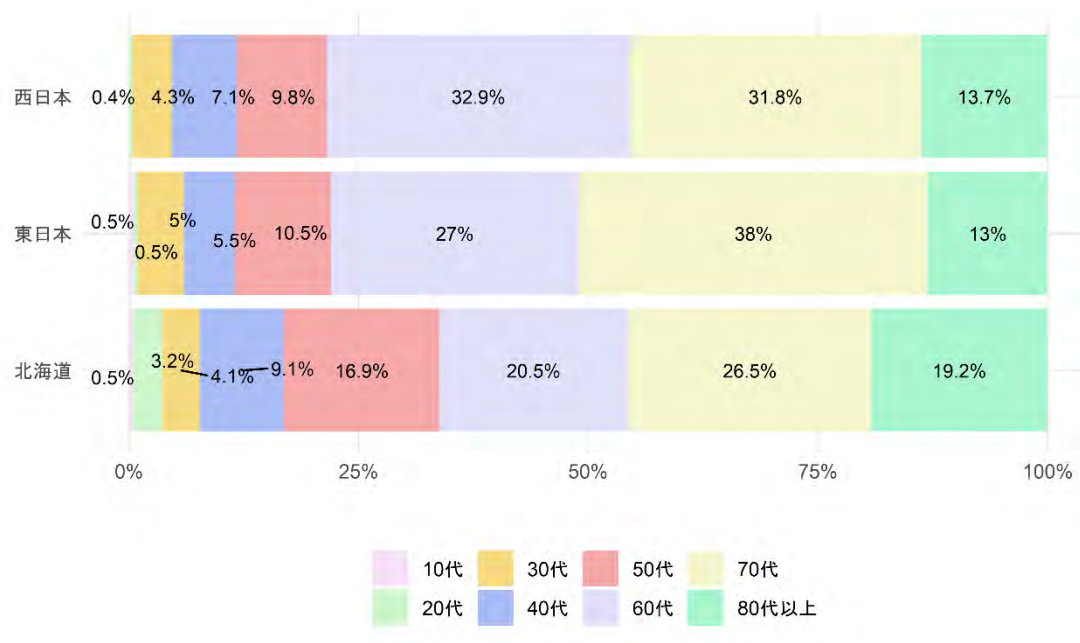
(2) 農業地域類型別

農業地域類型別に比較すると、もっとも高齢者の割合が少ないのが中間農業地域であり、もっとも高いのが山間農業地域である。



(3) 地域別

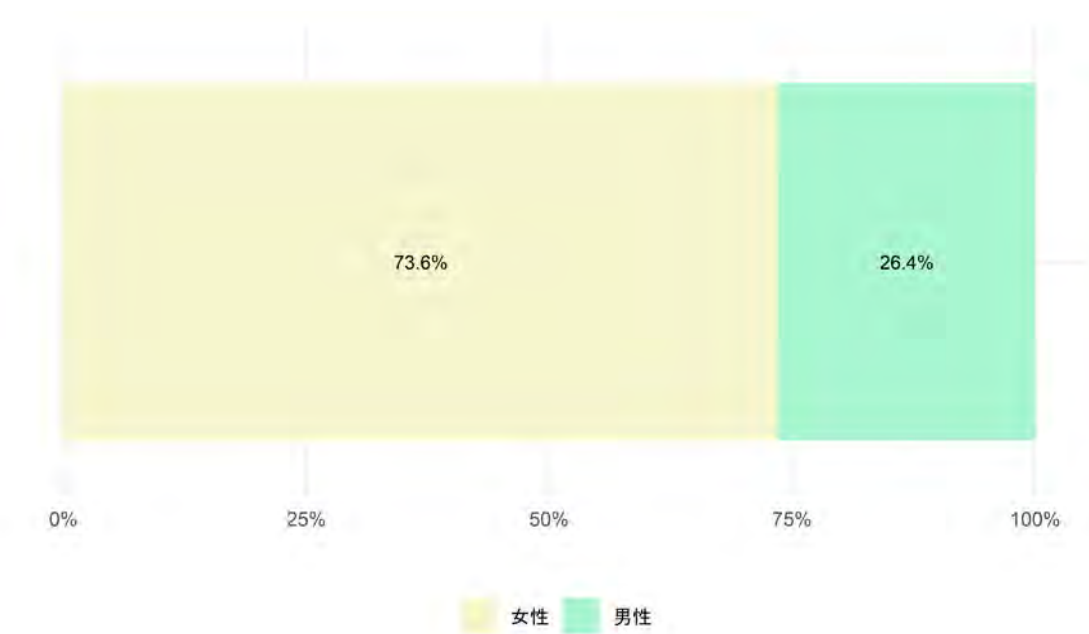
地域別に比較すると、北海道での高齢者割合が低い。



4.1.2. 回答者の性別

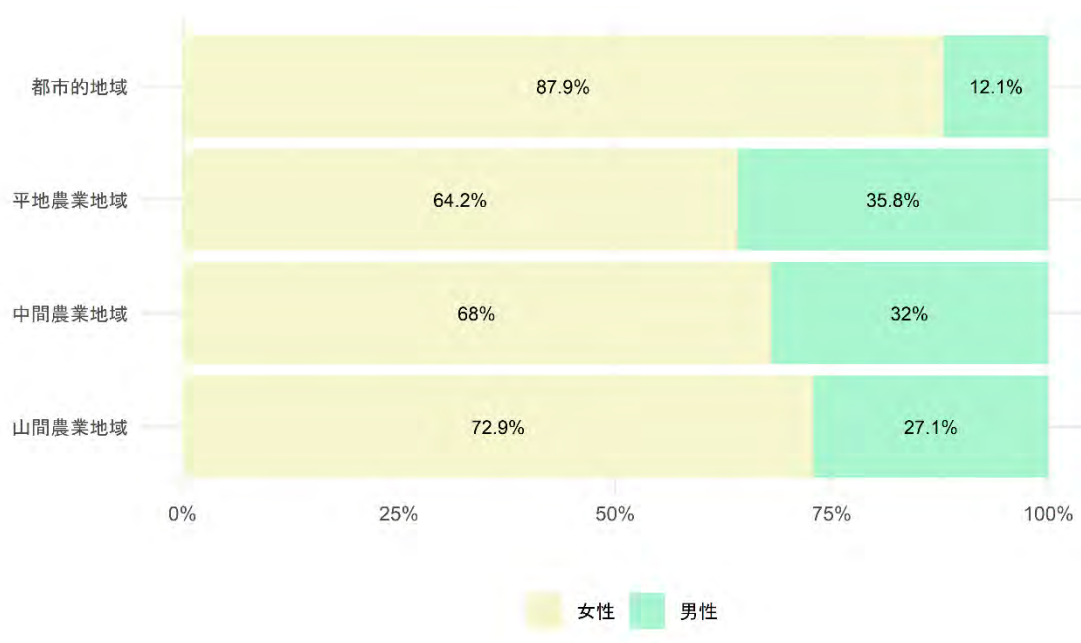
(1) 全体

回答者の約 3 / 4 が女性である。



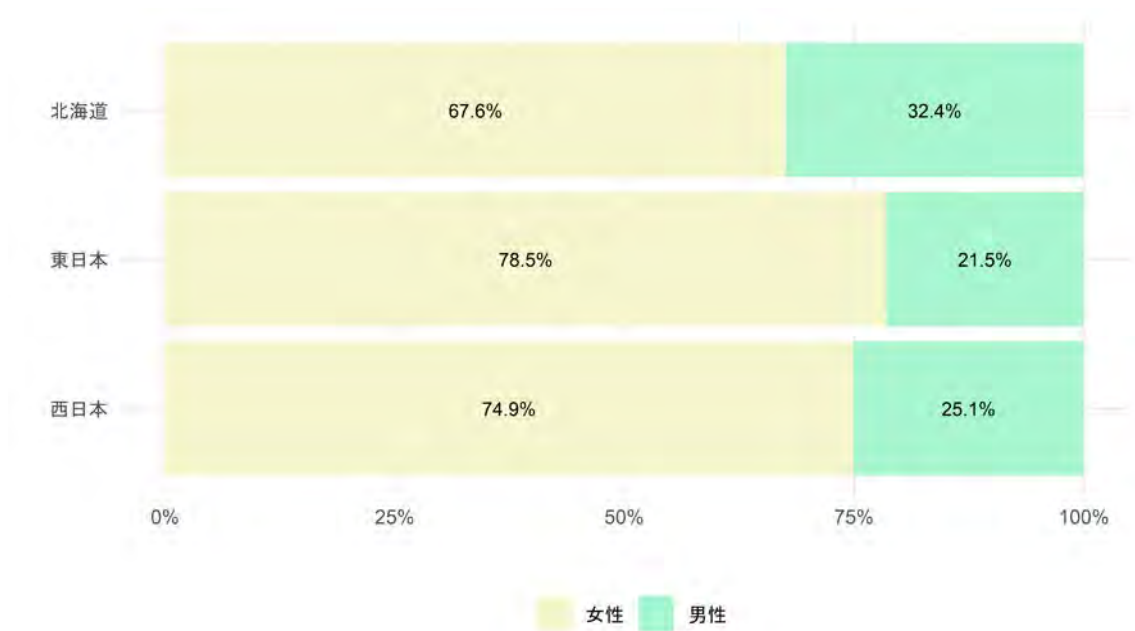
(2) 農業地域類型別

農業地域類型別に性別を見ると、都市的地域で 9 割近くが女性である。



(3) 地域別

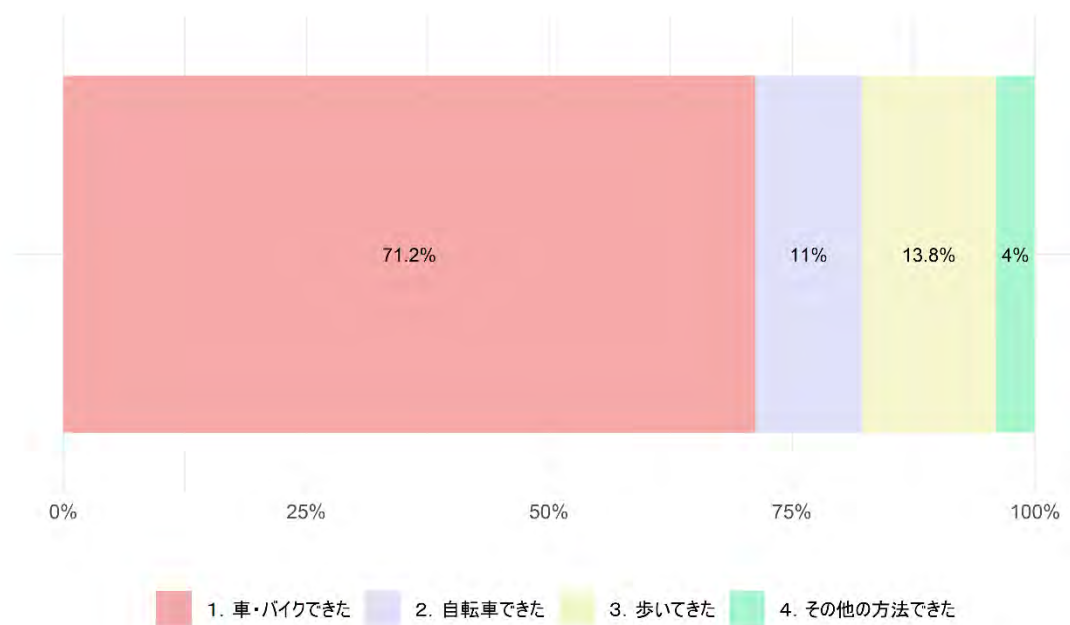
地域別に見ると、性別に大きな違いは見られないが、北海道において若干女性比率が低い。



4.1.3. 来場の方法

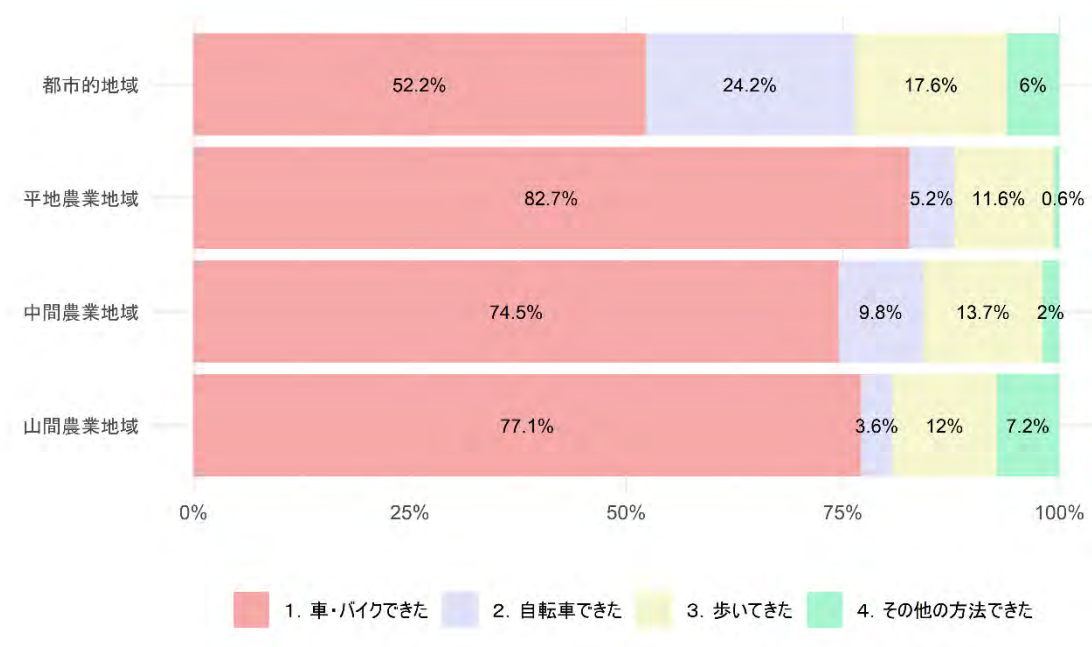
(1) 全体

約7割が「車・バイクできた」と回答している。その他の方法の多くは、バス等の公共交通機関である。



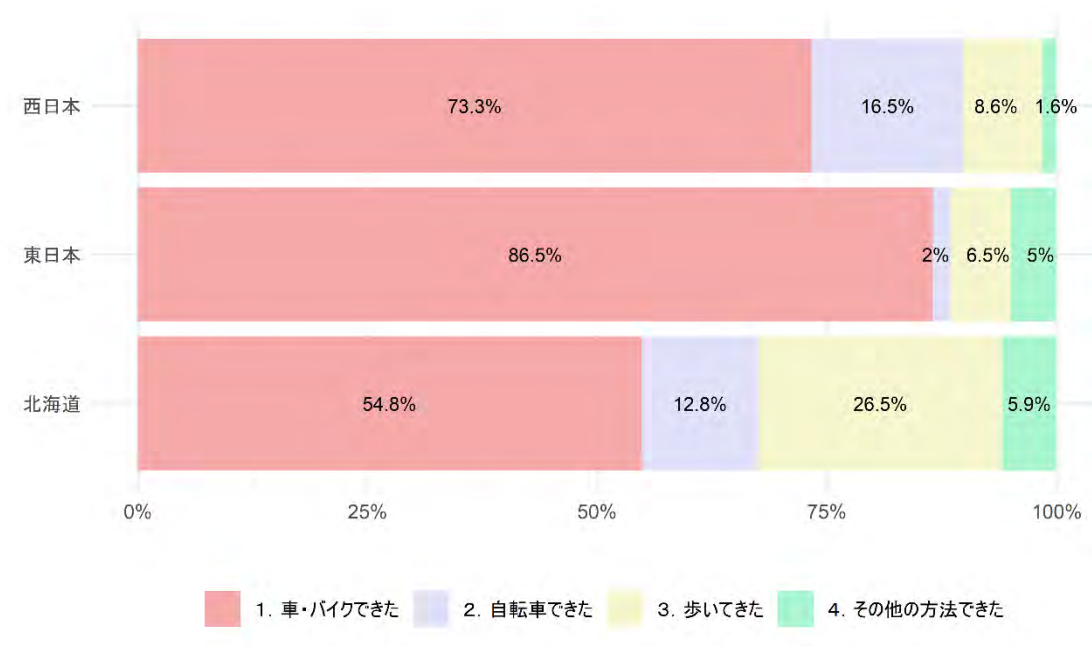
(2) 農業地域類型別

農業地域類型別に見ると、都市的地域では「車・バイクできた」比率が低い。



(3) 地域別

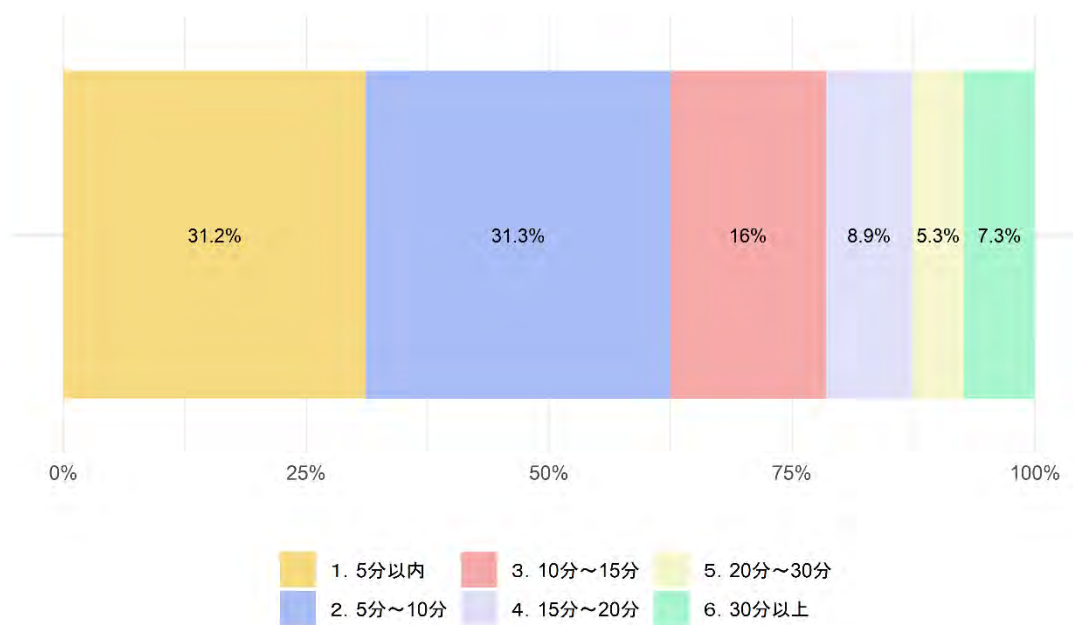
地域別に見ると北海道において、「車・バイクできた」比率が低い。



4.1.4. 所要時間

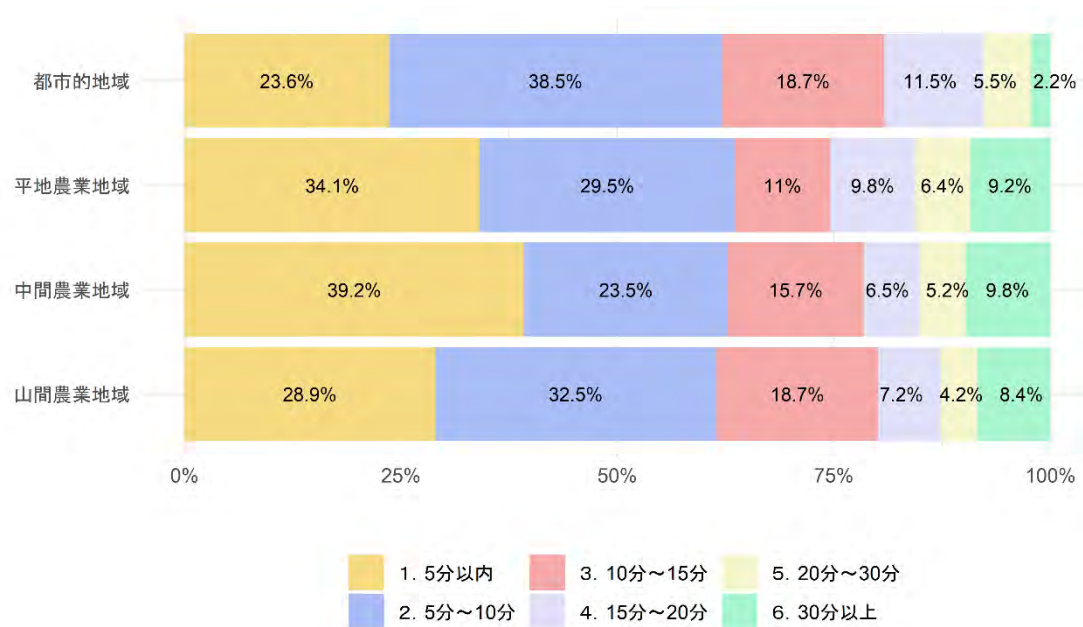
(1) 全体

所要時間は約6割が10分以内であるが、30分以上かかる地域からきている人もある程度いることがわかる。



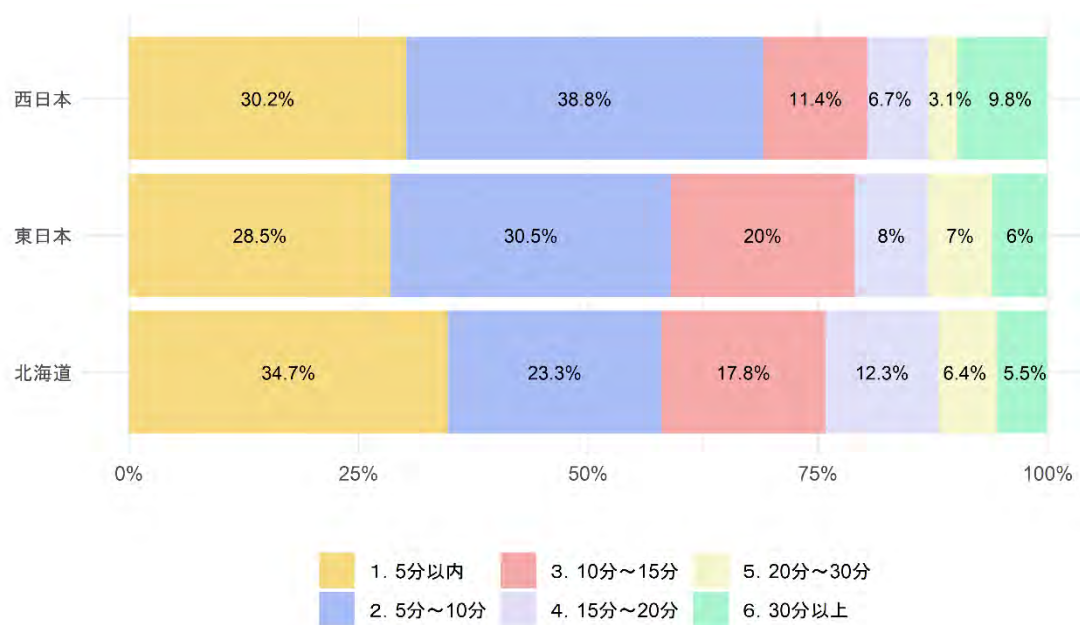
(2) 農業地域類型別

10 分以内の割合は、農業地域類型別に大きく変わらないものの、5 分内の割合については若干異なっている。



(3) 地域別

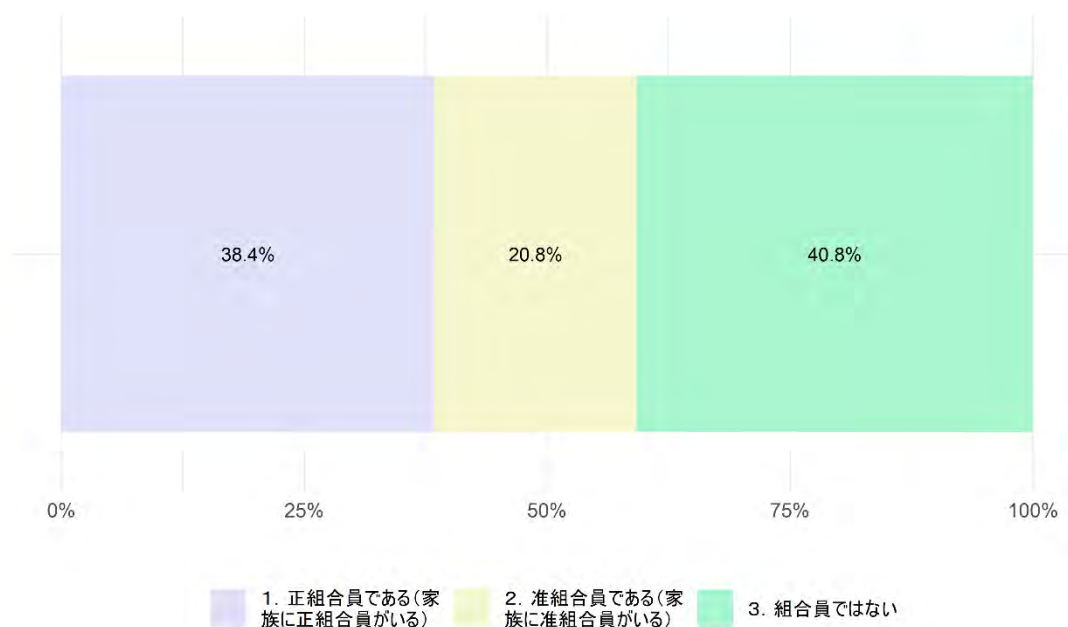
地域別に見ると、西日本の方がやや短い。



4.1.5. JA への加入状況

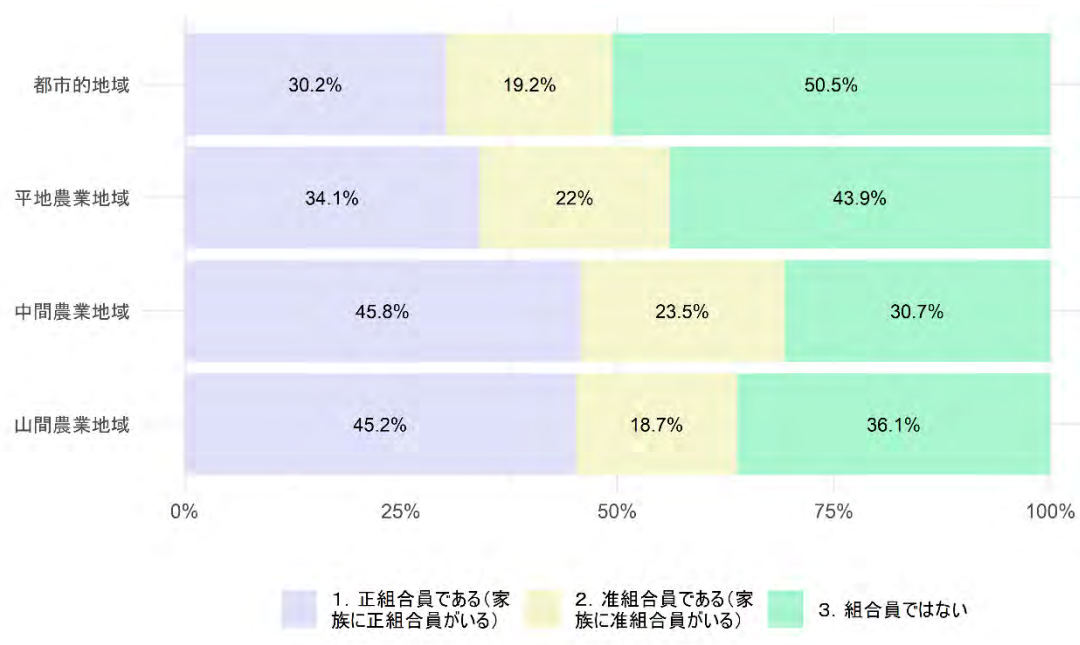
(1) 全体

正組合員である割合と組合員でない割合がほぼ同じで4割程度である。



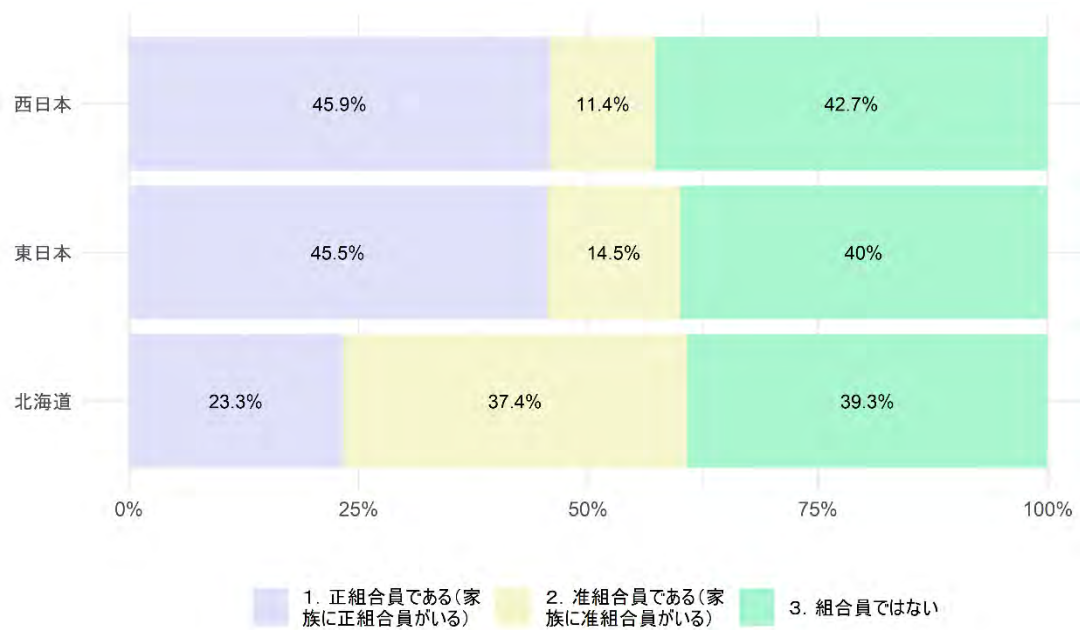
(2) 農業地域類型別

都市的地域での JA への加入率は低い。



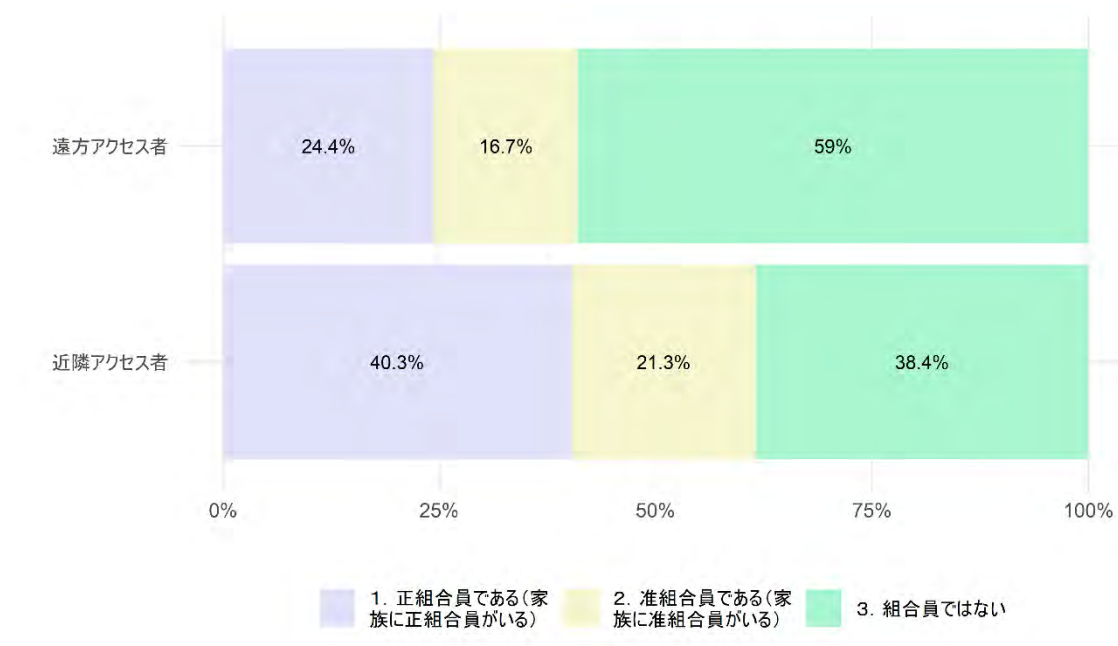
(3) 地域別

地域別に見ると北海道における正組合員率は低い。



(4) アクセス状況別

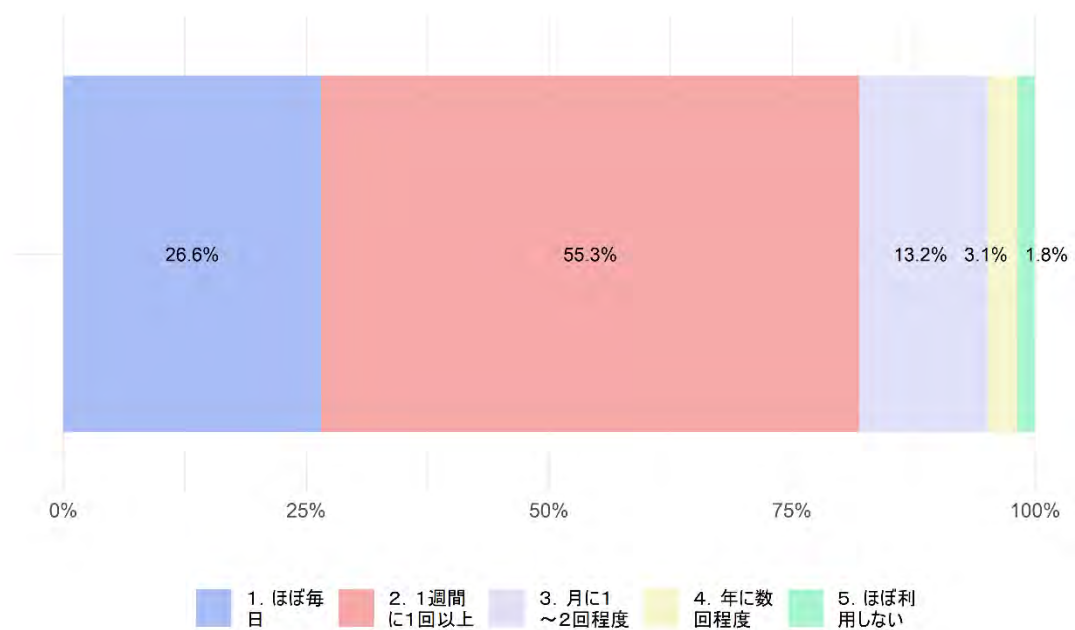
徒歩で15分以上、自動車で20分以上かかると回答した人を遠方アクセス者と定義し、遠方アクセス者、近隣アクセス者別に加入状況を比較した。その結果、遠方からアクセスしている人の正組合員率が低いことが明らかとなった。



4.1.6. 利用頻度

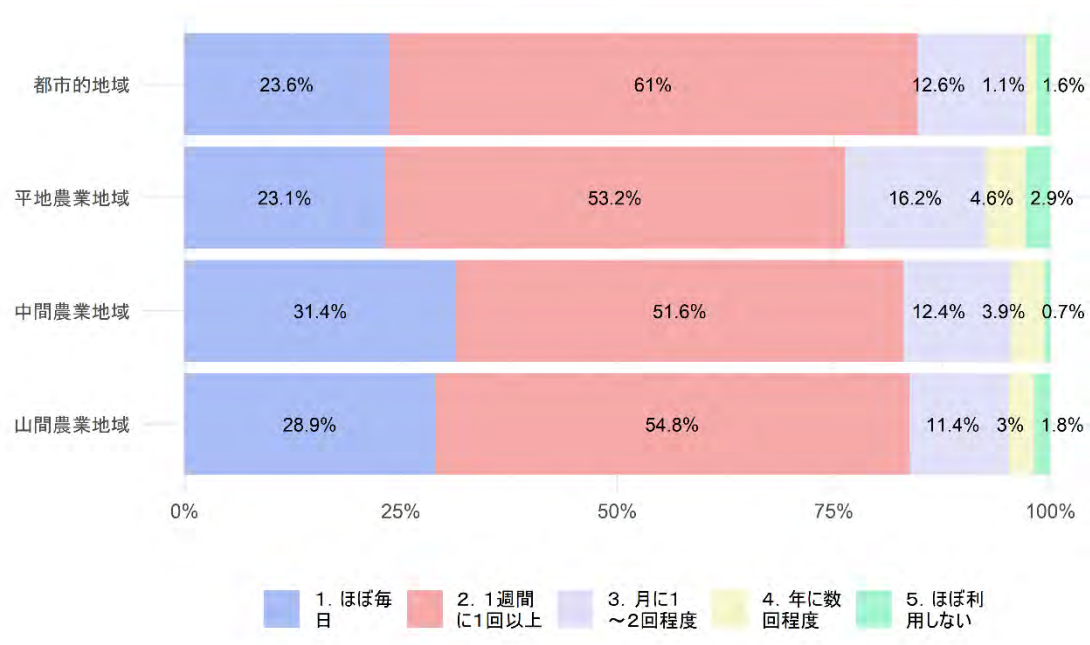
(1) 全体

利用頻度を見ると「1週間に1回以上」が半分以上であり、「ほぼ毎日」と併せると8割以上が週に1回以上利用している。



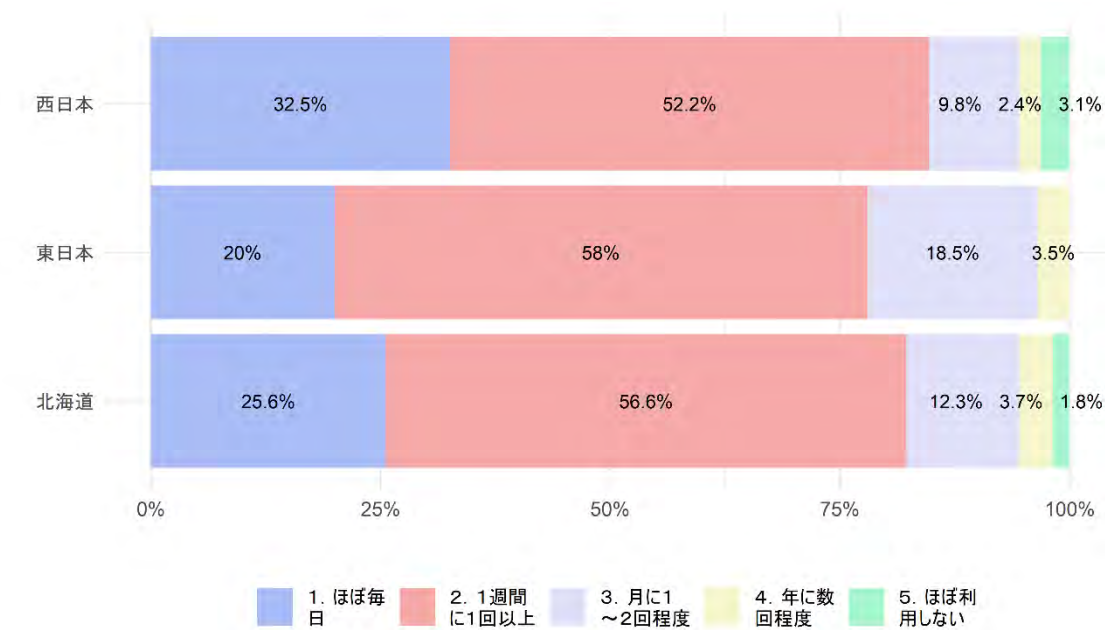
(2) 農業地域類型別

農業地域別に大きな違いは見られないが、平地農業地域において若干利用頻度が低い。



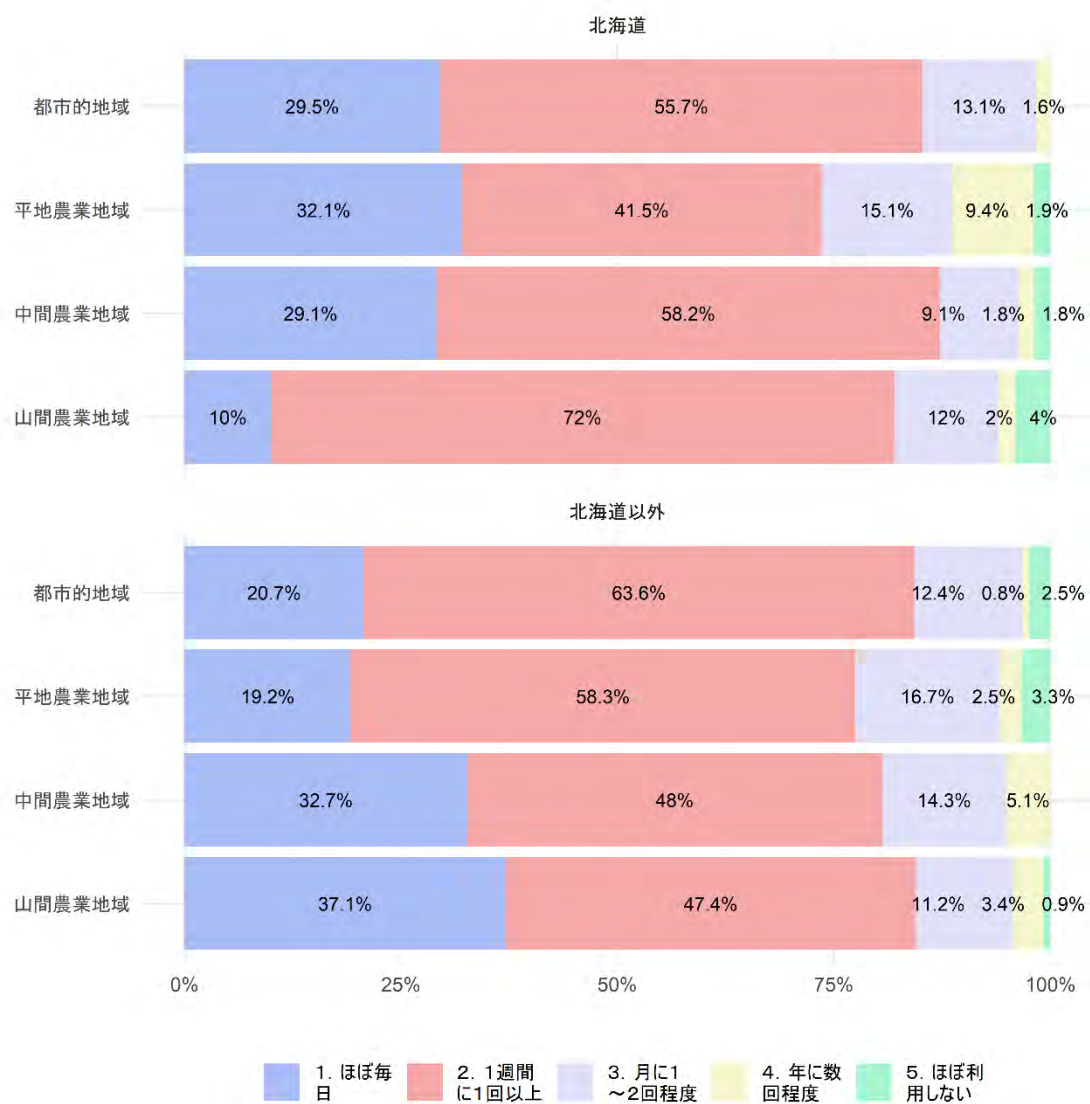
(3) 地域別

東日本において若干利用頻度が低くなっている。



(4) 農業地域類型×地域別(北海道、北海道以外)

北海道では山間農業地域、北海道以外では都市的地域、平地農業地域の「ほぼ毎日」率が低くなっている。



(5) アクセス状況別

遠方からアクセスしている人の利用頻度は低い。

